

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年 8月 25日

東京大学での所属学部・研究科等:	文学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	International Summer Institute	派遣先大学:	ソウル国立大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

ソウル国立大学。毎年夏期長期休暇にサマープログラムを開催。

参加した動機

ある程度海外に滞在し異文化を体験したかったから。有名大学のサマープログラムであれば世界中からの学生と交流できると考えたため。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

二月ごろ、書類を提出。予想以上に提出期限が早く焦った。3月に東京大学からの推薦を得る。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

韓国では90日以内の滞在ではビザが原則不要。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

大学の寮に入るためには予防接種を受けたという証明書が必要。母子手帳などを参照し、本郷のトラベルクリニックにて不足していた予防接種をうけ、証明書を発行してもらった。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

国際交流課に手配された付帯海学を利用。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

担当教員に相談する。学部に留学届を出したほかは特別な手続きを行わず。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
応募前にIELTSを受験し、6.5のスコアを得た。もう少し英語を学んでおけばよかったと後悔している。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
特になし。必要なものは現地にて問題なくそろう。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
週に3日間の授業。3時間+3時間+2時間の授業。複数の授業の中から選択。必ずしも3授業をとる必要はない。授業のテーマは様々。朝鮮半島の文化、政治、言語に関わるものも多かったが、化学や経済など地域性の少ないテーマの授業も選択可能であった。
②学習・研究面でのアドバイス
それなりに予習復習は負担が大きい。
③語学面での苦勞・アドバイス等
英語をもっと勉強してから行くべきだった。授業はすべて英語で行われるので、韓国語ができなくても全く問題は無い。
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
大学で用意されたキャンパスに隣接する寮を利用。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
寮は快適。大学の中で日用品はすべてそろう。大学は市街地から少し離れている。クレジットカードの通用度が高い。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
特になし。治安は問題ない。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
往復航空券3万、授業料はソウル大による負担。寮費800ドル。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

Jasso奨学金

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

ソウル市内や郊外の観光。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

申し分ない。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

申し分ない。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

プログラム全体は比較的自由度の高い物であり、その分期中の過ごし方も学生それぞれであった。もう少し英語を学んでから参加するべきであったかとの後悔もある。

②参加後の予定

プログラムを通じて学んだことを生かし、学業などに取り組んでいきたい。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

積極的に参加して多くのことを学んでほしいと思う。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年9月14日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	SNU International Summer Institute	派遣先大学:	ソウル大学校
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界: 未定)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

韓国トップの国立大学です。受験競争が非常に激しい韓国において、ソウル市内の大学、通称「インソウル」の中でも特に有名な3校SKY(ソウル、高麗、延世)の筆頭です。学部生数は東大よりもやや多く、1万6千を超えますが、16学部もあり、中には音楽学部のような東大にはない専門もあります。メインキャンパスはソウル特別市南部の冠岳区にあり、冠岳山の麓から中腹まで広がるキャンパスは自然豊かであると同時に、高低差が激しく、身体を鍛えさせられます。

参加した動機

昨年台湾で行われた似たようなサマープログラムに参加し、とても多様な学生に囲まれた充実な時間を過ごし、また似たような、視野を広げられるような体験を求めて参加しました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

ソウル大学の寮に入るには健康状態に関する書類が必要なのですが、書類提出期限の都合上健康診断が間に合わなかったため、入寮は諦めてairbnbで学外の宿泊場所を確保しました。寮は1ヶ月800ドルと決して安くはないため、入寮するかどうかはサマープログラムとは別個に考えていいと思います。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

必要ないです。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

東大の健康診断を受けてから出発しました。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

付帯海学に加入しました。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
Sセメスターは何も履修していなかったため、また前期課程在學生は基本的に単位の互換はないため、特に手続きは行いませんでした。
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
韓国語は一切できませんでしたが、英語はIELTS8.0点でした。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
クレジットカードが使える場所が日本より圧倒的に多いので、ない場合は作っておくと便利です。
学習・研究について
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
週3日間(月、水、木)授業があります。最大3科目履修でき、時間割は午前3時間のAブロック、午後3時間のBブロック及び夕方2時間のCブロックに分かれています。AとBは英語で行われる授業、Cは韓国語の授業です。金曜日には2週間に一回観光イベントがあり、国境付近や野球スタジアムなどに行けますが、参加は強制ではなく、学費とは別の料金が発生します。私はUS and East Asia、Peacebuilding in the Korean Peninsula、Korean Level 1(初級)を履修し、観光には全く参加しませんでした。国際政治関連の2コマは両方とも、与えられた論文や課題文を予習し、クラスでは理論的な部分を教授がレクチャーした上で学生間で議論を行うような形式でした。平和構築の授業は盧武鉉政権時代の元外務大臣による講義で、当時のアメリカ、中国、ロシアと日本との韓国の外交の実体験について語ってくれたりしたことが印象的でした。
②学習・研究面でのアドバイス
自由時間が多い分、予習の分量も多く、また語学の学習には必然的に時間がかかるため、勉強時間を確保することがまず大事です。英語で行われる授業に関しては、ネイティブでない学生にも配慮しているためか、中間、期末試験の採点は特に厳しいわけではないので、課題文の内容を詳細に全て覚えるというよりは、重要なポイントだけを暗記し、その上で自分の意見を論理的に時間制限内に書けるようにしておけば、問題はないはずです。
③語学面での苦勞・アドバイス等
韓国語のクラスはレベル分けされているので、初心者でも不安になることはないです。進度はそれなりに速いので、単語帳を作ったり何度も書いてハングルの練習をしたりすることをおすすめしますが、毎週授業だけでも6時間あり、発音や単語に関しては日本語を知っているというアドバンテージもあるので、苦になることはないと思います。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
airbnbでホームステイ先を確保しました。1泊約15ドルで、水回りとキッチンがホストと共有、寝室はデスクと収納付きの一人部屋でした。教室までの距離は、私の場合は徒歩で30分ほどでしたが、キャンパスが広いので何を履修するかにもよると思います。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

夏は東京と変わらない暑さです。ソウル大のキャンパスはソウル大入口駅から落星台(Nakseongdae)駅からも少し距離があるので、外出するときはバスで地下鉄駅まで行きます。食事については、ソウルの外食は東京と価格が変わらないですが、学食が安いです。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

ソウル市内はとても治安がいいです。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空費3万円、保険1万円弱、教科書3千円、家賃5万円、食費3万円

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSO 7万円

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

友達と一緒にソウル市内の観光、スポーツ試合の観戦などをしていました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

寮に入っていれば、RAが多くの面でサポートしてくれるそうです。その他、Office of International Affairsは学習面や生活面について英語で相談に乗ってくれます。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館はKwanjeongと呼ばれる新館がとにかく広くて綺麗で、上層階の勉強スペースは、夏休み中だからか人もそれほど多くなく、落ち着いて勉強するのに適しています。食堂に関しては、数が多く、それぞれの食堂で定食メニューが異なりますが、価格は高く一食400円、学外と比べてかなり安いです。食堂では学生証を用いてクレジットカードを登録しておく、支払いに自動的に学生割引が適用されるようになるので、登録しておく便利です。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

学校から少し離れたところに宿泊していたこともあり、授業外での学生との交流は、これまで参加してきたプログラムと比べて少なかったと思いますが、その分勉強に力を入れました。そのおかげで、ニュースの裏にある朝鮮半島問題の歴史的背景、問題を説明しようと試みる様々な理論、それに基づく各国の様々な対応等について、多くのことを学ぶことができました。このプログラムは理系から文系まで多くの授業が提供されていますが、せつかく韓国で行われているので、半島に関する国際政治や平和構築に関する授業をとることが最も有意義であると思います。

②参加後の予定

北東アジアの情勢について、このプログラムで培った国際関係に関する知識と視点を利用して、引き続き注目していきたいと考えます。また、韓国語の勉強も続けていきたいと思います。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

近年では毎年世界中から300人以上集まる大規模のサマープログラムなので、様々な背景を持つ学生と交流することができますが、履修するクラスによって大体親しくなる人は固定します。自分とは違う興味分野を持った人と交流したければ、積極的に公式、非公式のイベントに参加し、毎週ある三連休を存分に利用すると思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

<http://isi.snu.ac.kr/isi/main/main.jsp>

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。